

1430 | 媒体組成研究

3単位（通信授業2単位・面接授業1単位）

金子伸二教授、前多令子講師

授業の概要と目標

芸術文化とりわけ造形芸術は、材料やその使用技法という物質的な要素を抜きに存在しえない。この授業では、造形芸術におけるこうした物質的要素を、記録や伝達、表現といった機能を個別的な作品として成立させる媒体としてとらえ、その時代的・地域的な特性や、例えば絵画における壁画・タブロー・挿絵等といった媒体の形式と美術館・印刷物・映像等による作品の鑑賞・受容のあり方とのかかわりを把握することをとおして、造形芸術に対するより深い理解を獲得することを目的とする。通信授業では、造形芸術と媒体とのかかわりについて、近代における複製技術の役割を中心に、理論的・歴史的観点から学習する。面接授業では、研究のケーススタディとして、今日まで造形芸術の主要な媒体の一つとなってきた書物について、その素材や構造を伝統的な書物工芸によりながら学習する。

課題の概要

○面接授業課題

書物工芸の歴史についての理解をもとに、西洋と日本の書物における材料・技法の特性と書物の機能について分析する課題。

○通信授業課題1・2

教科書の読解をとおして得られた理解をもとに、近代の造形芸術における媒体の変化および複製の概念について考察する課題。

*課題については学習指導書『媒体組成研究 平成29年度』を必ず参照すること。

授業計画

[面接授業]

- ・書物工芸の歴史に関する前提講義と博物館等の見学。
- ・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習（西洋の書物）
- ・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習（日本の書物）
- ・演習の報告と総括

[通信授業]

教科書（とりわけ、芸術作品におけるアウラの複製技術による凋落についての論述）の精読、参考文献等の資料調査およびレポートの作成。

成績評価の方法

[通信授業] レポートによる。

[面接授業] 演習での報告による。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 造形研究コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.049の特例を除く）。

[備 考] 芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目。

「印刷文化論」、「ブックバインディング」の単位を修得しておくことが望ましい。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：ヴァルター・ベンヤミン「複製技術の時代における芸術作品」『ボードレール他五篇』所収（岩波書店 1994年）

学習指導書：『媒体組成研究 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）